

なんだかんだ、楽しかったです。

第9期 猿渡 裕也

無謀にも、小野ゼミの門をたたいてから、約2年間がたちました。小野ゼミ生・会計士受験生という2足の草鞋を履いていたこの2年間を振り返ってみると、予想外に満ちた日々でした。なによりも一番の予想外は、小野ゼミに入る段階で半ば諦めていた公認会計士の資格を、無事に取得することができたことです。この結果は、本当に多くの小野ゼミ内外の方々のご理解のおかげであり、いくら感謝してもきれません。そのほかにも、この2年間の中で、2つの大きな意識の変化がありました。

1つ目の大きな変化は、時間への意識です。睡眠時間がこんなにも大切で、こんなにも幸せなものだと、2年前には想像もしていませんでした。週8と揶揄される小野ゼミと、週7日が当然の会計士受験生。合計すると週15日必要な計算。私はもともと、グループワークでは成り行きを見守っているタイプであった（小野ゼミ生に信じてもらえるかは分からないが…）のですが、そんな悠長な事をしていると睡眠時間がなくなってしまいます。そこで、どんどん思ったことを発言するようになりました。煮詰まって停滞しているときに、「もう今日は解散でいいんじゃない？」と言った回数は、誰にも負けたいと思いません。そんな、山のようにやることのある状況で、限られた時間の中で結果を出すことの重要性を認識することができたのは、とても有意義であったと思います。その反面、特に3年生の時は、周りを気遣うだけの余裕がなく、グループワークで不快な思いをさせてしまったことも多かったと思います。本当にごめんなさい。

2つ目の大きな変化は、質への意識です。「いかに短い時間で70点を取るか」ということが、2年前までの私が最重要視するポイントでした。しかし、小野ゼミの中では膨大な時間を投資してでも、できる限り高い成果を追い求めてきました。自分では気付かなかったアイデアが同期生や先輩から出てきて、少しずつ積み上がっていくような感覚は、なんともいえない面白さがありました。「楽しめた方が勝ち」というような風潮がある大学生活の中で、コストを度外視してでも質の高いものをという意識で取り組むことができたのは、とても貴重な経験でした。

なんだかいろいろまともになく書いてきたものの、小野ゼミ生活を振り返っていて、何よりも9期の皆と同じ期になれて、本当に良かったと思います。これからも、色々と助けてください。最後に、8期の先輩方・大学院生の皆さん、たくさんコメントやアドバイス、本当にありがとうございました。自分が先輩になって、その大変さを思い知りました。そして小野先生、いつも貴重な時間を割いて、熱心にご指導いただき、ありがとうございました。こんなに熱心な先生が、大学にいらっしやると思っていなかったので、先生に出会えたことも私にとって、大きな予想外だったと思います。

正直、小野ゼミの2年間はきついことがたくさんあったけど、なんだかんだ、楽しかったです。